



第3章

観光振興ビジョンの推進

10年間という長期にわたり中央区観光振興ビジョン2012を推進するため、行政内の横断的な連携と区の様々な担い手の連携・交流を促進し、区が一体となって取り組むしくみを構築していきます。

1 推進の体制

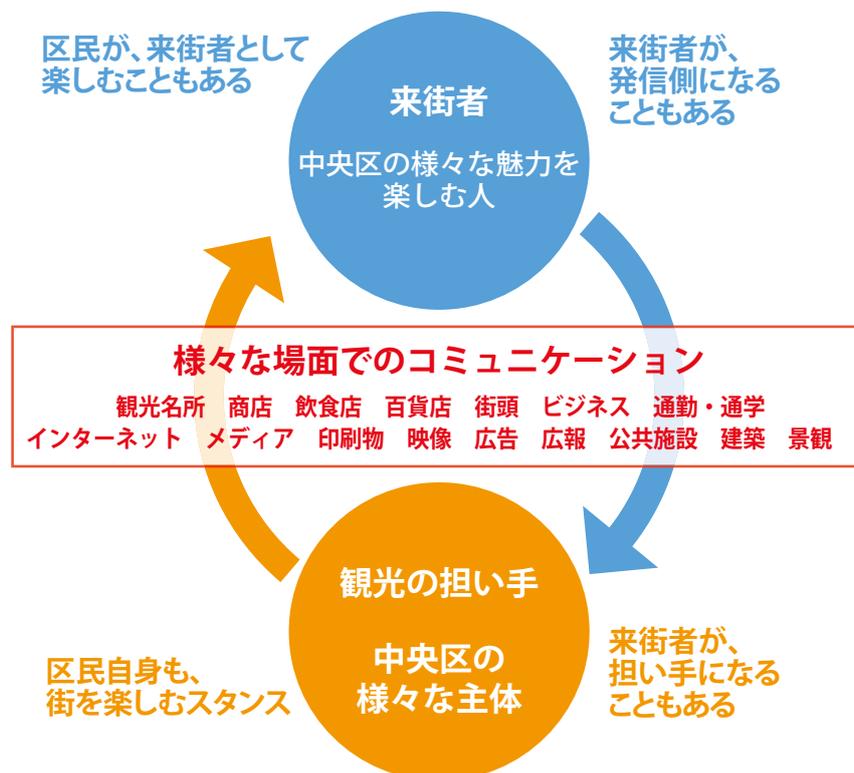
(1) 観光の担い手

観光振興ビジョンでは「都市観光」を実現するためのまちなみや水辺などのハード面から、新しいサービスや情報等のソフト面まで、多岐な分野に渡る人々の理解や協力が必要となります。また、商店街や事業者、区民などの積極的な参加が求められます。このため行政の各部署、区民、関係団体、事業者、専門家など様々な関係者が集まり、情報や問題意識を共有し、自分たちだけでは解決できない領域を補い合っていく関係をつくる必要があります。各々の活動が、どのように影響し合うのかを理解し、互いの立場を認め合うことが不可欠となります。

また「都市観光」の考え方を活かしていくために、観光ビジネスに携わる担い手だけでなく、まちを楽しむ区民や来街者にも様々な観光振興活動へ参加する機会を開きます。地域と立場を超えて、来街者も担い手となり、担い手も来街者として楽しむという「ともに楽しみ、ともにつくり上げる」観光を実現します。

様々な人々が立場を超えて集い、それぞれの知識・技・思いを持ち寄り、力を合わせて新しい区の魅力を創造するための気運を高めます。コミュニケーションの成果を広く発信し、それをきっかけにさらに多くの人々が中央区の「都市観光」に参加していく循環をつくります。

来街者も区民も観光の担い手であり、ターゲット



(2) 観光の担い手の役割

区の役割

区は、区民、事業者、商店街、地域団体など様々な観光の担い手と連携・協働して観光振興を推進していく中で、観光の担い手が積極的に活動できるよう支援していくとともに、担い手同士が連携する際の総合的な調整役を担っていきます。また、区内だけで観光サービスの提供や課題共有等を完結させるのではなく、区を超えた広い視点で観光の担い手同士が手を取り合い、「都市観光」を推進していきます。

観光団体、商工業団体、地域団体等の役割

観光団体をはじめ、地域の様々な団体は、それぞれの特性を活かしながら「都市観光」の視点で地域の魅力を高めるイベントの実施や地域経済の活性化を図っていきます。さらに、区をはじめ各団体間で情報や課題を共有し、協働による各種プロジェクトの創出をめざし、単独では実現できない事業を実施していきます。

事業者の役割

事業者は、各々の事業領域において時代の変化や多様な観光客のニーズに対応したサービスの展開、利便性向上、情報発信などを通して、区の魅力を高めることに寄与します。また、区や観光団体、商工業団体、区民などと連携し、観光客の誘致や区のブランドイメージ向上に取り組んでいきます。

区民の役割

中央区に住み働く人々が、毎日のくらしのなかでまちに親しみ、まちを楽しむことで地域の活性化に寄与し、区の魅力を高めることに貢献できます。住んでいるまちの歴史や文化に触れ、その魅力と出会う機会を増やすことで地域への愛着と誇りが生まれます。区民が自ら楽しむことが、友人・知人など来街者に対して中央区の魅力を伝えることにつながり、さらには、楽しみながら来街者をおもてなしすることにつながります。

また、区や観光団体、商工業団体、地域団体などが進める、地域活性化やまちづくりに関する取り組み、ボランティア活動に参加することで、自分達にとって住みやすく、来街者にとっても魅力的な、これからの中央区の「都市観光」の確立を担っていきます。

(3) 推進の体制

国内や海外からの多様な来街者を迎え、それぞれのニーズに即した様々なサービスを提供するには、プロジェクトごとに異なる技術や知見が必要となります。また、個別の活動では実現できない大きな取り組みを形成する上で必要な取り決めやルールを協議します。さらに、刻々と変わる社会情勢に臨機応変に対応するためには、状況に合わせて異なるチームを編成できる柔軟な体制をつくることが求められます。そのためには、公共性を担保する官と機動力を発揮する民が連携していくことが有効です。

都市観光推進協議会（仮称）

様々な観光の担い手が情報交換、課題共有のために協議する合議体

戦略3の重点施策で説明したように、様々な主体から代表者が集まり横断的な協議を進める場として「都市観光推進協議会（仮称）」を設置します。この協議会では観光振興ビジョンの方向性を相互に確認します。また、中央区の観光に関する情報共有、様々な課題解決のための協議を進める場として期待されます。

プロジェクトチームを生み出す機能

新しいプロジェクトを生み出していくためには、これまでにない新しい発想に果敢にチャレンジする担い手同士が知恵や課題を持ち寄る必要があります。「都市観光推進協議会（仮称）」ではこうした担い手同士の交流を促し、行政主導の横断的な施策プロジェクトや、地域団体や民間企業が新しい観光ビジネスを進めるプロジェクトチームを組織化する場としての機能を担います。

ビジネスマッチング機能

新たな事業を立ち上げていくためには、他の自治体で成功している事例について学んだり、自分たちだけでは解決できない領域を補うパートナーを探す必要があります。これらを個々の担い手が独自に進めることは大変困難です。「都市観光推進協議会（仮称）」では、海外や他の地域で成功している事例をヒントに、中央区で展開できる新しい観光ビジネスのアイデアを検討し、それに挑戦する担い手にパートナーを紹介するなどのビジネスマッチング機能を担います。

観光振興ビジョンの達成度を確認する機能

観光振興ビジョンで掲げた「都市観光」の理念とそれにもとづく目標に向け、各戦略をたて施策を設定しました。この目標にどれくらい近づいたのか、各々の施策がどの程度達成できたか、あるいはできなかったのか等をチェックする機能を担います。また、刻一刻と変化する社会情勢により、今回策定したビジョンの方向性が時代に適応しなくなる可能性もあるため、ビジョンの軌道修正も行います。

「中央区観光拠点（仮称）」を活動の拠点とし、その運営者と区の協力体制で事務局機能を構成する

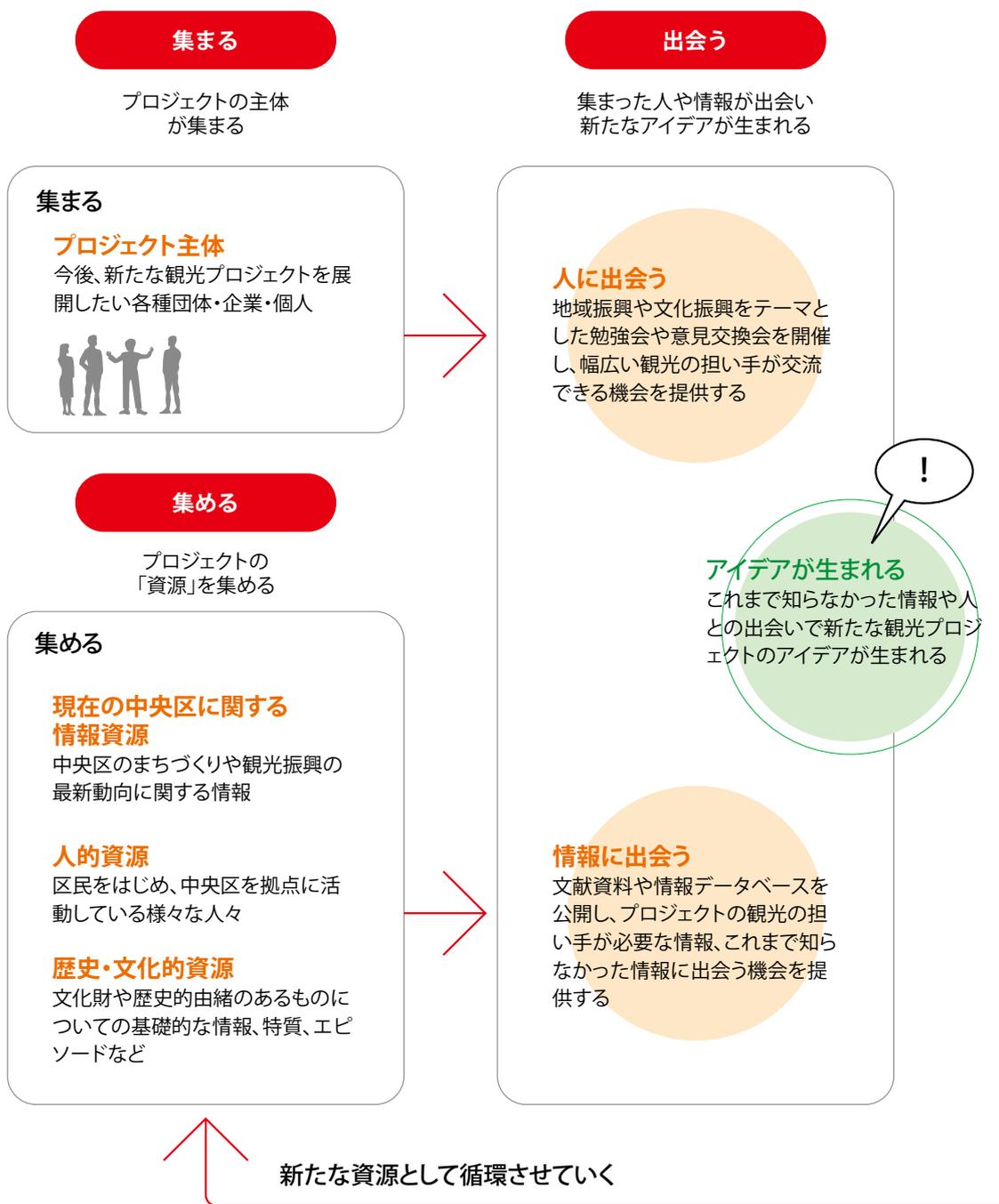
多くの観光の担い手が参加できる場を形成していくには、核となる事務局における官民の協力体制が必要になります。区による公平性、中立性の確保と、民間による機動力の発揮という双方の利点を活かすために、区民を主役として引き立てる黒子役として活躍する事務局が必要です。

また、「中央区観光拠点（仮称）」では観光客に対して観光情報を一元的に発信していくことが求められますが、「都市観光推進協議会（仮称）」のネットワークにより区の観光情報の集積が容易になります。そのため、観光拠点の運営主体がこのネットワークをコーディネートする事務局を担い、多くの担い手が集まるネットワークの活動の場として拠点を活用していきます。

「都市観光推進協議会（仮称）」の体制イメージ（例）



(4) 様々なプロジェクトを生み出すしくみ



創造する

アイデアをプロジェクトとして具体化する

例えば・・

商品開発型プロジェクト

新たな特産品や旅行商品を開発

イベント立案型プロジェクト

ファッションショーやグルメイベントなど新たなイベントを開発

キャンペーン立案型プロジェクト

一定期間内に特定エリアで展開するキャンペーンを開発

市民参加情報発信プロジェクト

新しい情報発信の方法を市民参加で実現するメディア開発

サービス開発型プロジェクト

ホスピタリティ向上のための新たなサービス開発

資源発掘型プロジェクト

まだ眠っている中央区の観光資源を発掘

発信する

プロジェクトを実践し観光資源として発信する

例えば・・

イベント

テストショップ

企画展

ウェブサイト

フリーペーパー

ポスター・チラシ

パブリシティ

タイアップ

コミュニティFM

新聞・TV等マスメディア

2 推進の拠点

(1) 「都市観光推進拠点（仮称）」の設置

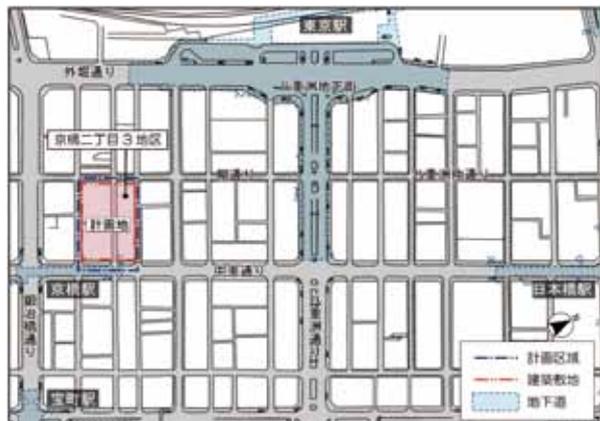
平成28年（2016年）京橋二丁目に整備が予定されている「中央区観光拠点（仮称）」に先駆け、「都市観光」の推進拠点を設置します。この拠点では、区や観光協会を中心に官民一体となって観光振興ビジョンに掲げる施策を推進し「中央区観光拠点（仮称）」における活動へとつなげていきます。

(2) 「中央区観光拠点（仮称）」の整備

京橋二丁目西地区第一種市街地再開発事業において「中央区観光拠点（仮称）」の整備が検討されています。観光振興ビジョンで掲げている「都市観光」の実現に向け、多様な観光の担い手が活動できる拠点として有効活用することが重要です。

そのため、「中央区観光拠点（仮称）」は、戦略5の重点施策で紹介したような観光案内施設機能だけではなく、観光振興ビジョンの戦略1～5の推進を支える機能が求められます。

観光の担い手が主役となり、来街者の回遊性向上、観光に関わる国際交流、担い手の人材育成・情報交換などの活動を繰り広げ、中央区の魅力を創造・発信する拠点をめざしていきます。



京橋二丁目西地区

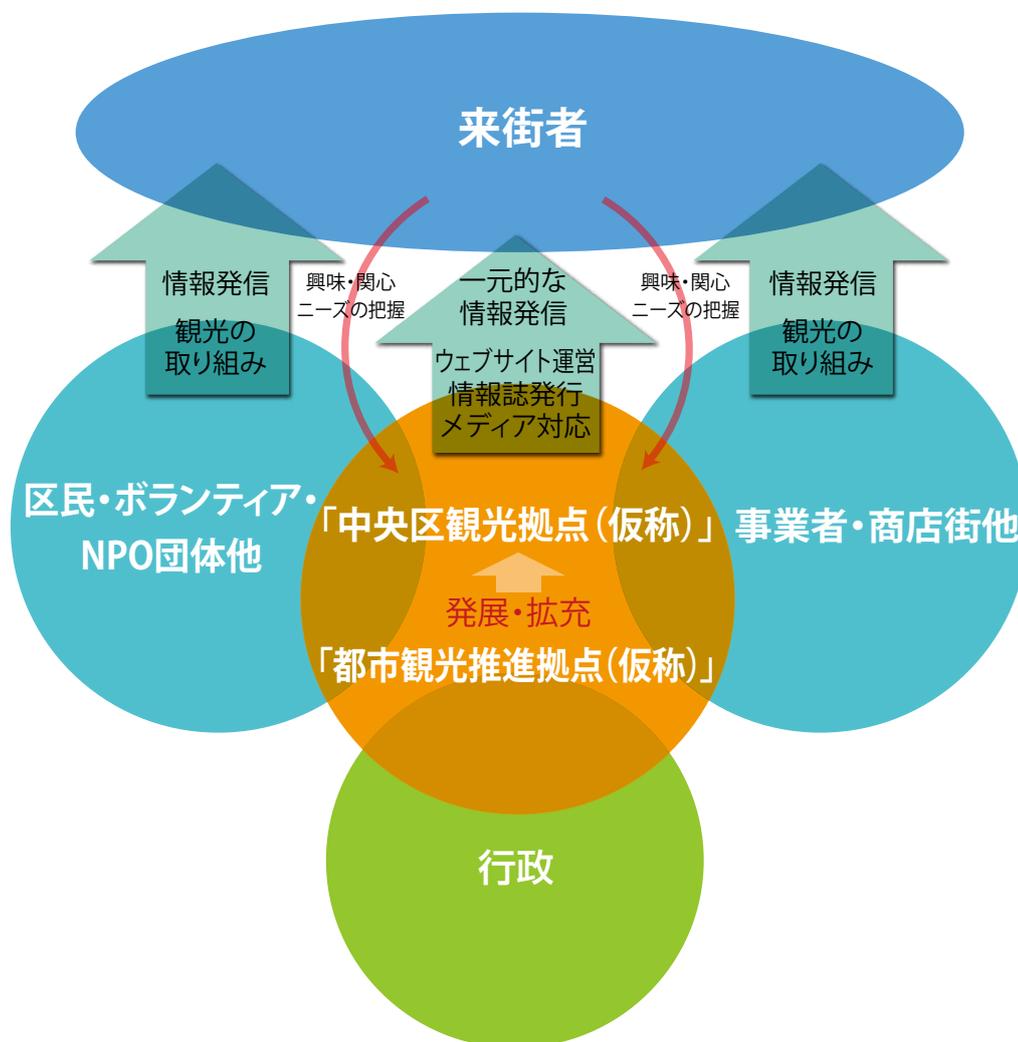
(3) 「中央区観光拠点（仮称）」の位置づけ

本ビジョンでは、戦略3において施策の方向性として「『民』の力を活かし、『官』との連携を促す」ことを掲げています。そのため、「中央区観光拠点（仮称）」は独自に活動するのではなく、多種多様な観光の担い手が相互に連携・協働し合いながら、本区の新しい魅力を創造・発信していくなど「民の力」が主役となるような施設が望ましいと考えられます。

単なる観光案内所ではなく、区の様々な担い手が交流し、新しい取り組みのアイデアが生まれ、互いの課題を解決できるノウハウを持ったパートナーが見つかるような、区の観光活動の拠点としての活用を検討していきます。

そのため、「中央区観光拠点（仮称）」は、右図のように、区民、ボランティア、NPO 団体等の取り組みや事業者、商店街、観光事業者の取り組みと行政の取り組みをつなぎ、区の様々な観光の

担い手同士が連携しながら来街者に対する情報提供やサービスを高めていくための活動拠点をめざします。



(4) 「中央区観光拠点（仮称）」の運営について

京橋二丁目に近い東京駅周辺での来街者の滞在時間を延ばすとともに、来街者の増加や、周辺地域への回遊性を高め、中心市街地の活性化に寄与するためには、「中央区観光拠点（仮称）」を魅力的な観光施設にする必要があります。また、観光拠点はビジョン実現に向けた人材育成や情報発信等の各種プロジェクトを行う場としても機能します。これらを区だけで実行することは困難であり、民間の資金、発想、ノウハウ等を積極的に活用することで、効率的な施設の整備、維持管理及び運営を行うことが求められます。

